

組みの目玉であり、受講者だけでなく、講師についても市民から公募し、自身のスキルや経験、趣味など自由なテーマで講義を行っていただくことにより、市民同士が学び合える新たな仕組みといたします。人の健康学部、まちと社会の健康学部では、それぞれの健康分野に応じて、子育て講座や街づくり学校などをはじめとする様々な講座を実施します。新しい発見や、それを共有する仲間に出会えるとともに、おひとりさまの居場所ともなる、この健康都市大学に皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

スポーツは、心身の健全な発達や体力の増進、地域の交流促進など幅広い役割を担う力を持っており、その振興を図ることは重要であると考えております。

皆様ご存知のとおり、昨年12月、本市のホームタウンチームである「大和シルフィード」が、なでしこリーグ2部への昇格を、ついに成し遂げました。今後は、なでしこリーグ1部への昇格を目指し、全国を舞台として挑戦を続けていくことと思っております。本年6月に開催される女子サッカーワールドカップに向け、熱気が徐々に高まりを見せる中、大和シルフィードの更なる躍進を期待し、新年度もしっかりと支援を行ってまいります。

本年9月には、アジア地域で初となるラグビーワールドカップが日本で開催されます。特に決勝戦などが県内で行われることもあり、楽しみにされている市民の方も多いのではないのでしょうか。このような機会を捉え、新年度は、「トップ

す。また、これから起業する方や起業して間もない方に向けたレンタルオフィスである「起業家支援スペースRinger」については、ご利用の募集開始後、瞬く間に全ての区画へご応募いただき、現在も満室が続いている状況でございます。ベテルギウスに入居している多種多様な団体や事業者が力を蓄えるとともに、互いが影響し合いシナジー効果なども生み出しながら、それぞれの分野のトップランナーとして、大きく羽ばたかれることを期待しております。

ベテルギウスの開設と時を同じくして、本市への進出を希望する企業や、事業拡大に取り組む市内企業等を支援するために、「大和市企業活動振興条例」を施行いたしました。新年度は、この条例に基づき、新規立地1社、事業拡大2社、設備投資8社の計11社に奨励金を交付していきます。今後も企業誘致活動などを積極的に展開し、市内産業の活性化や新たな雇用の創出に結びつくよう、取り組んでまいります。

大和市には、現在、およそ6,600人の外国人市民がお住まいとなっております。その数は年々増加傾向にあります。国際色豊かな本市は、平成21年度から大韓民国光明市と友好都市として提携しており、両市の関係は今年の秋で満10年を迎えます。来年2月には「光明市立合唱団」をお招きし、その歌声を披露していただく予定です。

これからも市民、地域、団体、事業者など、大和市に集う皆様の力が大いに発

スポーツ観戦デー」として、大学ラグビーの公式戦を誘致いたします。更に、元プロ野球選手を招く新たなイベントも開催し、子どもを対象とした野球教室や、この日のために結成される大和市選抜チームとの交流試合など、質の高いスポーツを身近で感じられる場を増やししながら、スポーツに取り組む市民の意欲を高めてまいります。

こうした取り組みに加え、新年度は、大和なでしこスタジアムにおいて、公認の陸上競技場として機能を維持するための改修等を行うほか、下福田野球場においてはトイレを更新するなど、環境の向上も含め、幅広い観点から地域スポーツの推進を図ることで、スポーツをする人、見る人、支える人、そして地域のつながりが生まれるよう力を傾けてまいります。

昨年8月、中央林間駅から程近い場所に、文化とスポーツ、子育てが融合する新しいタイプの公共施設、市民交流拠点ポラリスが誕生いたしました。連日、多くの方にご利用いただいております。星の子広場で、たくさん子どもたちが満面の笑顔とともに遊び回る微笑ましい姿を、小田急線の車窓越しや、通りゆく道すがら、ご覧になる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。施設の2階にはアリーナを備えており、バレーボールや卓球、バドミントンなどの屋内スポーツをお楽しみいただける環境を整えております。新年度には、利用環境を更に向上させるため、陽の光を遮るカーテンを設置して

揮されることで、60周年に留まらず、市制記念日が幾度となく訪れる、持続可能な都市になるものと考えております。

基地対策

最後に基地対策について申し上げます。

昨年は、長年にわたり市民に騒音被害を及ぼしてきた空母艦載機が山口県の岩国基地への移駐を完了し、戦後70年を超える厚木基地の歴史において一つの節目の年となりました。この移駐実現は、議会、市民、行政など関係者の皆様の騒音被害の抜本的解消に向けたこれまでの不眠の取り組みが実を結んだものであり、市民の悲願であった騒音被害の解消を期待しているところでございます。

一方で、現在の東アジア情勢に目を向けますと、ご承知のとおり我が国を取り巻く安全保障環境は、北朝鮮の非核化の動向や、米中関係、あるいは日韓、米韓の関係性の変化など、様々な課題や不安定要因により、極めて流動的で先行き不透明な状況となっております。本市の基地対策を進めるうえでは、こうした国際情勢の変化や国の安全保障・防衛政策の動きなども踏まえ、これらが厚木基地にどのような影響をもたらすのか、幅広い視野を持つことも重要と考えます。

空母艦載機の移駐が完了したとはいえ、国や米軍からは、厚木基地は今後も重要な施設であるとの言及もあり、本市

まいりますので、プレーする種目に応じてご利用いただければと思います。今後も、幅広い年齢層の方々に、愛着を持ってご利用いただける北部の拠点となるよう、魅力ある運営に努めてまいります。

8 市民の活力があふれるまち

八番目の基本目標は、「市民の活力があふれるまち」でございます。

去る2月1日、大和市は市制施行から60周年を迎え、翌2日には「市制60周年記念式典」を挙行いたしました。この日を迎えることができたのも、市民の皆様が様々な形で、市の発展に貢献されたことの積み重ねによるものと、改めて



神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏と共に市の歴史を振り返った市制60周年記念式典

に厚木基地が所在するという本質的な問題は、これまでと何も変わっておりません。むしろ厳しさを増す国際情勢や米軍機等による事故の続発など、基地周辺住民に与える不安や影響は増しているとも言える状況であり、また、広大な敷地を有する基地の存在によるまちづくりへの影響など、市民は基地の所在に起因する多大な負担を今後も引き続き強いられることから、こうした大きな負担に対する国の適切な対応も不可欠であると考えております。

こうした状況を踏まえ、移駐完了に安堵することなく、米軍の動向や国の防衛政策など、様々な状況を注視しつつ、今後の厚木基地のありようをしっかりと見極めていくとともに、市民生活や街づくりにへの影響の観点から、更には将来活躍する子どもたちに健康で住みやすいまちを残すためにも、本市といたしましては、引き続き厚木基地に起因する諸問題の解決と市民負担の軽減に向けた取り組みを全力で進めてまいります。

平成の最後に

以上、「健康都市 やまと」を実現するための所信並びに主要な事業について、申し述べてまいりました。

冒頭で述べさせていただいた平成時代の振り返りに関し、最後に一つ触れておきたいことがあります。それは、この国

感謝申し上げる次第でございます。本市では今年1年を「市制60周年記念イヤー」と題して数多くの取り組みを展開してまいります。5月の「大和市民まつり」、夏の「神奈川大和阿波おどり」、今年で第10回を迎える11月の「渋谷よさこい」に加え、年末を飾る市民参加型エンターテインメントショー「やまとde紅白歌合戦」なども60周年を冠した事業として開催していく予定です。

防犯や防災、まち並みの美化活動など、多種多様な本市の地域活動を長年にわたって支えてこられたのが自治会の皆様であることは申し上げるまでもございません。引き続き自治会活動をしっかりと後押ししていくため、新年度には、中央四丁目自治会館の新築、緑ヶ丘自治会館の建替えを支援するほか、平成29年度から進めている各自治会館の耐震化についても、これまでの診断費用に加えて、新たに改修工事を助成対象とするなど、安全性の向上を図ってまいります。また、地域の皆様が集まるコミュニティセンターに関しても、新年度には南林間会館と鶴間会館において空調改修を行うなど、快適にご利用いただくための取り組みを進めてまいります。

様々な人や団体が気軽に集い、交流を深める場として、昨年4月に市民活動拠点ベテルギウスがオープンいたしました。この施設の中核となる市民活動ブース「部室」は、現在、入居率が100割近くに達するなど、大変熱を帯びております。様々な人や団体が気軽に集い、交流を深める場として、昨年4月に市民活動拠点ベテルギウスがオープンいたしました。この施設の中核となる市民活動ブース「部室」は、現在、入居率が100割近くに達するなど、大変熱を帯びております。様々な人や団体が気軽に集い、交流を深める場として、昨年4月に市民活動拠点ベテルギウスがオープンいたしました。この施設の中核となる市民活動ブース「部室」は、現在、入居率が100割近くに達するなど、大変熱を帯びております。

が平和であったということ。私たちが笑顔で今日を過ごし、希望を胸に明日へ向かっていくために、平和が不可欠であることは言うまでもなく、本市が進める健康都市の取り組みも、平和であるこそ成り立つものでございます。私は、市長就任から間もない平成21年に、世界の恒久平和実現を目指して各国自治体のリーダーが集う「平和首長会議」へ加盟するとともに、平成26年には「日本非核宣言自治体協議会」へ加入するなど、国内外の多様な自治体とも連携しながら、市民生活の礎となる平和を希求することも積極的に推進してまいりました。また、市内の子どもたちが広島を訪れ、平和の尊さについて学ぶヒロシマ平和学習派遣事業や、平和関連施設を巡りながら親子で平和の大切さについて考えていただくピースリングバスツアーを実施し、平和というかけがえない宝物を、次の世代へつないでいくことなどにも努めているところでございます。

程無く、平成の世が終わりに、新しい時代の幕が開きます。この国が、この世界が未永く平和でありますよう、そして、23万5千人の市民の皆様が幸せな毎日を送れますよう切に祈念しながら、残された平成の日々を大切に、一意専心、市政運営に邁進したいと思っております。

今後とも、議員並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。